

## 2004年春から2大展覧会開催

森美術館（港区六本木：六本木ヒルズ 森タワー / 館長 デヴィッド・エリオット）では六本木ヒルズ 1周年を迎える4月末より、本年のプログラムを代表する2つの大型企画を相次いでスタートいたします。2004年4月28日から「MoMA ニューヨーク近代美術館」展、2004年5月29日からは「イリヤ&エミリア・カバコフ」展を開催。53階で開催する「MoMA ニューヨーク近代美術館展：モダンってなに？：アートの継続性と変化、1880年から現在まで」と題した本展は、「モダン」と呼ばれる19世紀末から20世紀中頃にわたる時代や、またその時代に生み出されたアート作品と現代アートとの関係について、新たな切り口を提案します。一方、52階で開催する「イリヤ&エミリア・カバコフ展：私たちの場所はどこ？」は独自の物語性・パロディを用いて真摯な問題提起を大胆な世界観で表現するアーティスト、イリヤ&エミリア・カバコフ（在ニューヨーク）の新作展です。両展はまったく異なった表現世界・メッセージ性を持ちますが、共通する圧倒的なスケール感とボリュームは、来館者に驚きをもって迎えられることと確信しています。2004年春からの2大展覧会で森美術館はさらなるアートとの出会いを創出します。

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦  
TEL: 03-6406-6111 FAX: 03-6406-9351  
E-mail: [pr@mori.art.museum](mailto:pr@mori.art.museum)  
Web: [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー 森美術館

**PRESS RELEASE**  
プレスリリース

**MORI ART MUSEUM**

MORI ARTS CENTER

# MoMA ニューヨーク近代美術館展

## モダンってなに？：アート of 継続性と変化、1880 年から現在まで

会期：2004 年 4 月 28 日（水）－ 8 月 1 日（日）〔会期中無休〕 会場：森美術館 53 階

### ◎ムンク、ピカソ、マティスの傑作からひも解く、近代アートの新たな物語。

「モダンってなに？」は、ニューヨーク近代美術館（THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK, 以下 MoMA）コレクションから約 290 点の絵画、写真、映画、デザイン、および建築作品を紹介する展覧会です。19 世紀末から現代にいたる近代アートの流れを一貫した説明でつづる本展は、森美術館 2004 年度の重要な展覧会といえます。キュビズムとシュールレアリスムを頂点とする芸術運動のヒエラルキーを確立した「近代アート」の考え方はその後、30 年以上にわたる世界のアート、文化、政治、社会の激変によって重要性が薄れ、時流から外れたものとなりました。現在、近代アートは現代と関わり合いのない歴史上の一思潮とみなされがちです。そして「現代アート」という新しいカテゴリーに置き換えられようとしています。その関係は明白ではありません。

本展は過去と現在の新たな物語を作るべく、「近代」と「現代」の関係を探ります。19 世紀末から「近代」という言葉には多様な意味が含まれてきましたが、美術史上ではこのことが無視されてきました。森美術館ではアート、デザイン、建築のカギになる作品を紹介しながら、120 年前の美術や文化が今日の我々にとっても同じように大切であること、そこには連綿と続く根源的な要素があることを示します。

### PRESS RELEASE プレスリリース

### ◎新しい視点で浮き彫りになる「モダン」。 －初めての切り口で傑作をとらえる展覧会

これまで近代アートの変遷を見るときには、とかく異なる技法の評価や運動、「～主義」ばかりに注目してきましたが、本展では新たな 4 つのテーマを設けて作品を捉え、時代によって多様に表現される美術のより根源的な視点に注目します。

#### 4部構成

- ①「**根源に戻って**」では「不安」「孤独」「性」「死」といった私たちの生活に深く関わりあうテーマを、アーティストがどう表現したのかを紹介。（作家：ピカソ、ゴッゲン、ジャコメッティ、マティス、モネ、ルドン、ムンク等）
- ②「**純粋さを求めて**」では 20 世紀中頃、精神性や理想主義への関心が高まり、その結果様々な抽象的な作品が制作されましたが、そうした傾向が現代アートにどのように反映されているのかをみていきます。（作家：イヴ・クライン、ブランクーシ、カンディンスキー、モンドリアン等）
- ③「**日常性の中で**」は私たちの生活に身近なマスメディアや広告イメージを使って表現された「ポップアート」と、ありふれた日常生活をテーマに制作する現代アーティストの作品がどのように関連しあっているかを浮かびあがさせます。（作家：ウォーホル、リヒター、ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、ジェフ・クーンズ、ジム・ダイン等）

## MODERN MEANS: CONTINUITY AND CHANGE IN ART FROM 1880 TO THE PRESENT

④「変化に向かって」では、作家が表現したい主題をひとつの形ではなく自在な創意で変化・変形させた作品を掘り下げます。(作家：ヨーゼフ・ボイス、マン・レイ、ミロ等) これらのテーマを通し、今まで見えてなかった側面に光をあてる本展は近代アートの定義づけを明確にするだけでなく、ムンク、ピカソ、マティス、レジェなどの傑作と現代アート作品との関係も探りだします。共同企画者ならびに当館館長のデヴィッド・エリオットは「このような展覧会は長い間試みられませんでした。我々の時代のアート、建築、デザインに見られる創造性は、単に時代の一部ではなく、世界全体を包含する現象であることを示すことができるでしょう。」と述べています。そしてニューヨーク近代美術館館長のグレン・ラウリイは次のような言葉を寄せています。「この展覧会はニューヨーク近代美術館と、アジアにおけるアート世界の重要かつ新しい拠点としてその存在を確立しつつある森美術館との最初のコラボレーションです。森稔、森佳子両氏は旧くから MoMA のインターナショナルカウンシルメンバーであり、我々も森美術館の計画段階からその創出に深く結びつきを持てた事をたいへん光栄に思っています。本展の目的は近代美術を再考し、そこから新たなアイデアを喚起することにあります。分けられた4つのセクションを通して作品を観ることによって、浮かびあがるのはそれらの作品の奥底に存在する観念や独自の着想。それらが時代を超え、現代に与える影響を発見することとなるはずです。」

「モダンってなに？」は MoMA のキュレーター、デボラ・ウェイトとウェンディ・ウェイトマン、および森美術館館長デヴィッド・エリオットと森美術館キュレーター、金善姫が企画担当しています。

---

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 | 火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休  
入館料(円)：一般：1,500 (1,800) [2,000]  
学生：1,000 (1,300) [1,500]  
子供：500 (800) [1,000]  
<平日セット料金：MoMA 展+クサマトリックス展(～5月9日)またはカバコフ展、MAM プロジェクト002(ともに5月29日～7月19日)+展望台東京シティビュー入館>  
[休日セット料金：上記同セット]  
\*学生(高校・大学生) 子供(4歳以上～中学生)  
\*休日は土、日、祝日

主催：ニューヨーク近代美術館、森美術館、朝日新聞社、テレビ朝日  
企画：ニューヨーク近代美術館、森美術館  
特別協賛：ジブラルタ生命保険株式会社、ブルデンシャル生命保険株式会社  
協賛：株式会社ワールド、株式会社 大林組、新光証券株式会社  
特別協力：日本航空  
協力：リュイナール(宝酒造株式会社)、ボンベイ・サファイア、奥の松酒造株式会社

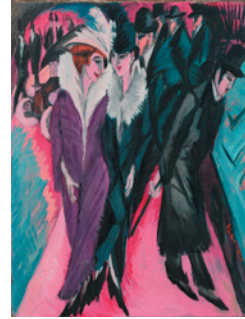
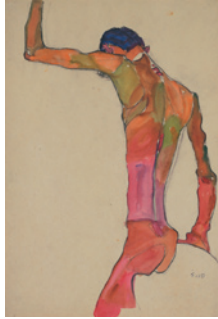
**PRESS RELEASE**  
プレスリリース

MORIART MUSEUM

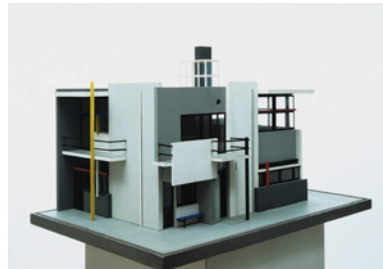
MORI ARTS CENTER

MoMA ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに？：アートの継続性と変化、1880年から現在まで  
MODERN MEANS: CONTINUITY AND CHANGE IN ART FROM 1880 TO THE PRESENT

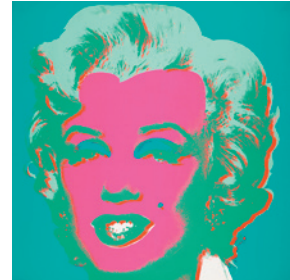
PRIMAL



REDUCTIVE



COMMONPLACE



MUTABLE



最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。随時ご確認ください。  
Please apply to use images at the Mori Art Museum website. WWW.MORI.ART.MUSEUM TEL: 03-6406-6111

PRESS RELEASE  
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## キャプション | CAPTIONS

### MoMA ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに？

### MODERN MEANS: CONTINUITY AND CHANGE IN ART FROM 1880 TO THE PRESENT

#### PRIMAL

1. エゴン・シーレ  
《片腕を上げて立つ裸の男》  
1910年  
水彩、木炭、紙  
44.5 x 30.8 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Gift of Jo Carole and Ronald S. Lauder

2. エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー  
《街路、ベルリン》  
1913年  
油彩、カンヴァス  
120.6 x 91.1 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Purchase

#### REDUCTIVE

3. ヘリット・リートフェルト  
《シュレーダー邸（模型）》  
1924年  
木材  
48.3 x 76.7 x 53.8 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Gift of Mrs. Phyllis B. Lambert  
©2004 Artists Rights Society (ARS), New York / Beeldrecht, Amsterdam

4. イモーゼン・カニンガム  
《モクレン（花の形）》  
1925年頃  
ゼラチン・シルヴァー・プリント  
17.1 x 21.6 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Gift of Albert M. Bender  
©2004 Imogen Cunningham

#### COMMONPLACE

5. ロバート・インディアナ  
《LOVE》  
1967年  
スクリーンプリント、紙  
86.3 x 86.3 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Riva Castleman Fund  
©2004 Morgan Art Foundation Ltd. / Artists Rights Society (ARS), New York

6. アンディ・ウォーホル  
《無題 版画集『マリリン』より》  
1967年  
スクリーンプリント、紙  
91.5 x 91.5 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Gift of Mr. David Whitney  
©2004 Andy Warhol Foundation for the Visual Arts / Artists Rights Society (ARS), New York

#### MUTABLE

7. ルネ・マグリット  
《光の帝国 II》  
1950年  
油彩、カンヴァス  
78.8 x 99.1 cm  
ニューヨーク近代美術館  
Gift of D. and J. de Menil  
©2004 C. Herscovici, Brussels / Artists Rights Society (ARS), New York

#### PRIMAL

1. EGON SCHIELE  
STANDING MALE NUDE WITH ARM RAISED, 1910  
WATERCOLOR AND CHARCOAL ON PAPER  
44.5 X 30.8 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
GIFT OF JO CAROLE AND RONALD S. LAUDER

2. ERNST LUDWIG KIRCHNER  
STREET, BERLIN 1913  
OIL ON CANVAS  
120.6 X 91.1 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
PURCHASE

#### REDUCTIVE

3. GERRIT RIETVELD  
SCHRÖDER HOUSE  
UTRECHT, THE NETHERLANDS,  
1924: MODEL DATA 1965  
WOOD  
48.3 X 76.7 X 53.8 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
GIFT OF MRS. PHYLLIS B. LAMBERT  
©2004 ARTISTS RIGHTS SOCIETY [ARS], NEW YORK / BEELDRECHT, AMSTERDAM

4. IMOGEN CUNNINGHAM  
MAGNOLIA BLOSSOM. C. 1925  
GELATIN SILVER PRINT  
17.1 X 21.6 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
GIFT OF ALBERT M. BENDER  
©2004 IMOGEN CUNNINGHAM

#### COMMONPLACE

5. ROBERT INDIANA  
LOVE, 1967  
SCREENPRINT  
COMP. AND SHEET: 86.3 X 86.3 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
RIVA CASTLEMAN FUND  
©2004 MORGAN ART FOUNDATION LTD. / ARTISTS RIGHTS SOCIETY [ARS], NEW YORK

6. ANDY WARHOL  
UNTITLED FROM MARILYN MONROE (MARILYN), 1967  
SCREENPRINT  
91.5 X 91.5 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
GIFT OF MR. DAVID WHITNEY  
©2004 ANDY WARHOL FOUNDATION FOR THE VISUAL ARTS / ARTISTS RIGHTS SOCIETY [ARS], NEW YORK

#### MUTABLE

7. RENÉ MAGRITTE  
THE EMPIRE OF LIGHT, II, 1950  
OIL ON CANVAS  
78.8 X 99.1 CM  
THE MUSEUM OF MODERN ART, NEW YORK  
GIFT OF D. AND J. DE MENIL  
©2004 C. HERSCOVICI, BRUSSELS / ARTISTS RIGHTS SOCIETY [ARS], NEW YORK

## PRESS RELEASE

### プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# イリヤ&エミリア・カバコフ展 「私たちの場所はどこ？」

会期：2004年5月29日（土）－7月19日（月・祝）〔会期中無休〕 会場：森美術館 52階

## 3つの時代とスケールが同居する、奇想天外の展覧会！

物語性に満ちたユニークな絵画やインスタレーション作品で世界中から注目されるロシア人アーティスト、イリヤ&エミリア・カバコフ（ニューヨークを拠点に活動）の新作展を開催します。この展覧会はイタリア・ヴェネチアのケリーニ・スタンパリア財団とローマに2004年秋に開館する21世紀国立美術館との共同開催となるもので、大好評を博したヴェネチアでの発表（2003年6～9月）に続き、森美術館52階にて開催されるものです（森美術館会期終了後ローマへ巡回予定）。イリヤ&エミリア・カバコフの最新作となる本展では、3つの時代の展覧会が異なるスケールで同じ展示空間の中に設置され、観客はまるでガリバーか小人になったような不思議な驚きと面白さを体験します。巨大なスケールで展開される「過去」の展覧会、ミドルスケールの「現在」、床に隠された別世界の存在を垣間見させてくれるミニサイズの「未来」の展覧会を見るために、来館者は時に見上げ、時にかがみこむなど様々な姿勢をとりながら空間をめぐることとなります。

絵画や彫刻、テキストや雑多な日常の記憶の断片で、さりげなくも緻密なトータル・インスタレーションを成立させるのがカバコフの作風。観客は入口から出口までの空間をめぐるながら時間、オブジェ、光と色、音に巻き込まれ、それらの意味の「相対性」の中に身を置き「自身の場所はどこか」「自分は何者か」を考えるきっかけを掴みます。体験する中で自身の記憶や想像力を動員して自由に遊ぶ面白さを発見されるはず。文学的側面においても才能を発揮するカバコフがつむぎだす途方もない世界。そこには特定のイデオロギーや物語に回収されるのを避け続けてきたカバコフならではの眼差しがあります。旧ソ連の政治体制、また第二次世界大戦から現在という時代の波にさらされてきた中で培われた強靱なユーモアと批評精神が独自の作品世界と人柄に息づいているのです。

### イリヤ・カバコフ 略歴

1933年ソ連のドニエプロペトロフスク市（現ウクライナ共和国領）生まれ。10才でレニングラード絵画彫刻建築大学付属の美術学校に入学、1951年にスリコフ記念モスクワ芸術大学グラフィック・アート科に入学。社会主義リアリズム体制の下、在学時より絵本の挿絵の仕事を始め、児童書の絵本挿絵作家として80年代末に西側に亡命するまで30年以上第一線で活躍する。並行して60年代～70年代に抽象や不条理な世界を描いた絵画、ソ連の日常生活で遭遇する場面をテキストとともに描いた絵本などを非公式に制作し、一部の関係者のみに公開する（代表的なものに絵とテキストで構成された「十の人物」という紙芝居形式の「アルバム」シリーズがある）。70年代半ばに成立した「モスクワ・コンセプチュアリズム」の一人で、体制反対を表明はしないものの、戦後ソ連で起こったさまざまな非公認芸術運動の周囲にいて、時に精神的中心の役割を果たす。87年に初めて西欧に招聘され、88年よりニューヨークを拠点にし、「共同キッチン」など旧ソ連の日常生活＝記憶のスペースを独自の皮肉とユーモア、フェティシズムを交えて再現した「トータル・インスタレーション」を展開、世界的に活躍する。ここ数年は旧ソ連の題材だけでなく、現代社会や美術の歴史・システムを再考する批評的なインスタレーションや、人間の想像の可能性を引き出すための大規模なプロジェクトをエミリア夫人との連名によって世界を飛び回り意欲的に行っている。日本での紹介も数多く、グループ展に「ソビエト現代美術～雪どけからベレストロイカまで～展（世田谷美術館、1991）、「境界線の芸術—絵画と彫刻を超えて」展（セゾン現代美術館、1991）、また大規模な個展に「シャルル・ローゼンタールの人生と創造」（水戸芸術館、1999）が、常設作品に《彼らはのぞきこんでいる》（名古屋市白川公園、1999）、妻有アートトリエンナーレ（2000）がある。

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 | 火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休  
入館料（円）：一般：1,500（1,800）[2,000]、学生：1,000（1,300）[1,500]、子供：500（800）[1,000] 本展チケットにMAMプロジェクト002（～7月19日）と展望台東京シティビュー入館料含  
<平日セット料金：カバコフ展、MAMプロジェクト002 + MoMA展（～8月1日）+展望台東京シティビュー入館>  
[休日セット料金：上記同セット]  
\*学生（高校・大学生）子供（4歳以上～中学生）\*休日は土、日、祝日

主催：森美術館、ケリーニ・スタンパリア財団、21世紀国立美術館

**PRESS RELEASE**  
プレスリリース

## MAM プロジェクト 002:

## ジュン・グエン = ハツシバ

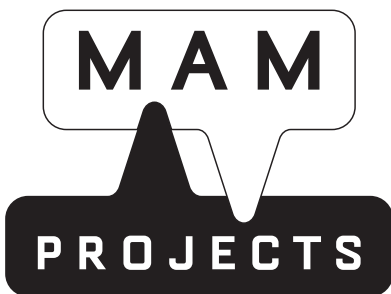
2004年5月29日(土) - 7月19日(月・祝) 会場: 森美術館 52階

## 海拔 250メートルの森美術館で、深海の世界を体験!

MAM プロジェクト第2弾はジュン・グエン = ハツシバ(日本生まれ・在ベトナム)。1968年、日本人とベトナム人の両親のもと東京に生まれ、現在はホーチミン・シティを拠点とするアーティストです。二つの祖国を持ち、米国で美術教育を受けた彼にとって、1990年代以降のグローバル化、国際化という大きな課題が、自己のアイデンティティの模索という個人的な問題と重なることは、まったく自然な流れであるといえます。初期作品では、シクロ(三輪タクシー)や蚊帳、新聞、米、インスタントラーメンなどを使ったインスタレーションを展開。ベトナムの社会背景において無視できないアメリカとの関係、経済環境などを作品のコンセプトに強く打ち出したものでした。その後、2001年に発表したビデオ作《ナ・トラン(ベトナム)のメモリアル・プロジェクト—複雑さへ、勇気ある者、好奇心をもつ者、そして臆病者のために》で、彼は国際的評価を得ます。インドシナ海で撮影されたこの映像作品では、海中でシクロをこぐドライバーの苦悩にみる複雑な社会背景と、あまりにも美しい海や光の色が対照的で、見る者の心を素直に動かします。以降、《ハッピー・ニュー・イヤール:ベトナムのためのメモリアル・プロジェクトII》(2002年)、《メモリアル・プロジェクト水俣》(2002年)と相次いで映像による新作を発表し、国際的な位置づけを急速に確立しつつあります。

MAM プロジェクト 002では沖縄の海で撮影された新作《ホー!ホー!ホー! メリークリスマス:フラッグ・プロジェクト沖縄》(2003年)を発表。アメリカ国旗とベトナム国旗にある星印をテーマにした作品ではジェームズ・ボンドのリミックス・サウンドが流れる海底で、ベトナム戦争に関与したハリウッド映画スターの肖像画が、ベトナム国旗の赤い布に黄色で描かれ、アメリカの“スター”(映画スターと星を意味する)からベトナム国旗の星への転換を示唆します。

特に今回の展示は海拔 250メートルの森美術館で、深海で撮影された作品を観る、というスペクタクルな体験となります。



森美術館が世界各国の才能豊かな若手アーティストを応援するプロジェクト・シリーズ。MAM プロジェクト 001-003は森美術館シニア・キュレーター片岡真実が担当します。

〈次回予定〉

**MAM プロジェクト 003**

R.O.R [レボリューションズ・オン・リクエスト]

主催: 森美術館

開館時間: 月・水・木 10:00-22:00 | 金~日・祝前日 10:00-24:00 | 火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休  
入館料(円): 一般: 1,500(1,800) [2,000]、学生: 1,000(1,300) [1,500]、  
子供: 500(800) [1,000] 本展チケットにカバコフ展(~7月19日)と  
展望台東京シティビュー入館料含  
<平日セット料金: MAM プロジェクト 002、カバコフ展(~7月19日) +  
MoMA 展(~8月1日) + 展望台東京シティビュー入館>  
[休日セット料金: 上記同セット]  
\*学生(高校・大学生) 子供(4歳以上~中学生) \*休日は土、日、祝日

**PRESS RELEASE**

プレスリリース

# イリヤ & エミリア・カバコフ展 「私たちの場所はどこ？」

ILYA AND EMILIA KABAKOV: WHERE IS OUR PLACE?

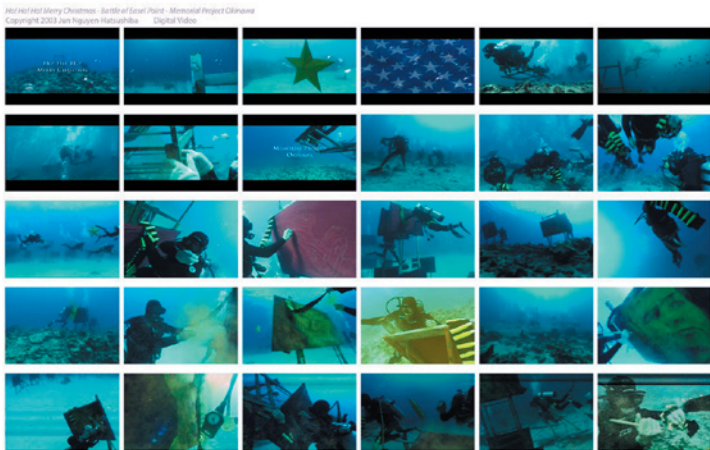


1、2. イリヤ&エミリア・カバコフ  
私たちの場所はどこ？  
2003年  
ケリーニ・スタンパリア財団  
写真提供：森美術館

1, 2. Ilya & Emilia Kabakov  
“Where is Our Place?”  
2003  
Fondazione Querini Stampalia  
Photo Courtesy: Mori Art Museum

3. 会場にて（右より）  
イリヤ・カバコフ、エミリア・カバコフ  
2003年  
写真提供：森美術館

3. Ilya Kabakov and Emilia Kabakov  
2003  
Photo Courtesy: Mori Art Museum



《ホー！ホー！ホー！メリー・クリスマスーバトル・オブ・イースト・ポイントーメモリアル・プロジェクト沖繩》（2003）  
Ho! Ho! Ho! Merry Christmas -Battle of East Point - Flag project Okinawa (2003)

ビデオ作品  
Video

最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。随時ご確認ください。

Please apply to use images at the Mori Art Museum website. WWW.MORI.ART.MUSEUM TEL: 03-6406-6111

## PRESS RELEASE

プレスリリース



MAM プロジェクト 002:  
ジュン・グエン = ハツシバ

MAM PROJECT 002:  
JUN NGUYEN - HATSUSHIBA

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# 今後の展覧会ハイライト

## (2004年～)

### 1. 小沢剛展 (仮題)

会期: 2004年8月24日～2004年12月5日 会場: 森美術館 53階

「牛乳箱」から世界を見つめる男、「相談芸術」の提案者として、1990年代以降、日本の現代アーティストとして国際展の常連となった小沢剛。牛乳箱、カプセルホテルから鍋料理まで、小さな空間やパーソナルな世界を他者と共有することで、世界をひとつに繋げてしまう小沢の魅力を一挙大公開。小沢巨匠の世界初個展です

### 2. COLORS ファッションと色彩: VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI

会期: 2004年8月24日～2004年12月5日 会場: 森美術館 53階

西洋のファッションを体系的にとらえる研究機関として知られる京都服飾文化研究財団(KCI)企画の巡回展。4/29～6/20まで京都国立近代美術館で開催されたのち東京にやってきます。2005年にロレアル社より香水を発売予定の若手注目デザイナー、ヴィクトール&ロルフをゲスト・キュレーターに迎え彼らのショーの映像を核に、18世紀から現代までの服やアクセサリなど約70点を展示します。

### 3. アーキラボ: 終わりのない都市 (仮題)

会期: 2004年12月中旬～2005年3月 会場: 森美術館 53階

建築は、現代の情報および都市環境と密接に結びついた先鋭的な実験の場となっています。コンピュータ、そして新素材は、これまで実現しえなかった形態を次々と生み出し、新たな建築物が都市空間に次々とあらわれはじめています。この展覧会では、1950年代以降、建築において各時代で探求されてきたユートピアのヴィジョンおよび実験を、現代の最先端の表現を中心に紹介することで、建築、都市、そしてアートの未来を探るものです。

### 4. ストーリーテラーズ: アートが紡ぐ物語 (仮題)

会期: 2005年4月～2005年7月 会場: 森美術館 53階

個人の意識によって生みだされる無限のファンタジーそしてその対極ともいえる、客観的に人々がとらえる事実描写。その混ざり合う部分を絵画、ビデオ、写真、インスタレーションなど様々なメディアのアートがフォーカスし、独自の表現によるストーリーを生みだします。

### 5. 杉本博司展 (仮題)

会期: 2005年10月中旬～2006年1月 会場: 森美術館 53階

ハーシュホーン美術館&彫刻庭園との共同企画です。

### 6. AFRICA REMIX: 現代アフリカ美術とその未来 (仮題)

会期: 2006年2月中旬～2006年5月中旬 会場: 森美術館 53階

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、 Hayward・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

### 7. ビル・ヴィオラ回顧展 (仮題)

会期: 2006年6月～2006年9月 会場: 森美術館 53階

### 8. ホット & スパイシー: アジアのクリエイターの今を描く

会期: 2006年10月～2007年1月 会場: 森美術館 53階

アジアのアート&カルチャーをリアルタイムで紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギッシュな芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

### 9. 路上の詩: フランス近代写真の軌跡

会期: 2007年2月～2007年5月 会場: 森美術館 53階

写真史の上でも魅惑的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

## PRESS RELEASE

### プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER